

1. 実況上の着目点

- ① 沿海州付近に中心を持つ高気圧が日本付近に張り出している。北日本は千島近海の低気圧の影響で、西日本や東日本太平洋側は高気圧の縁にあたるため、気圧の傾きが大きくなっており、風が強く吹いて波が高くなっている所がある。また、南西諸島は高気圧縁辺の東よりの下層暖湿気（13日09時の石垣島の高層観測で850hPa θ_e 343K を観測）が流入、海上では局地的に激しい雨を解析。
- ② 強い台風第25号がフィリピンの東を西北西進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、発達しながら13日夜には千島の東へ進む。1項①の高気圧は13日夜に日本海に移動、14日夜～15日にかけて中心を日本の東～日本のるか東に移す。北日本は13日は、低気圧の影響で風が強く吹いて波が高くなる所がある。また、北日本～西日本では14日は、日本の東に移動する高気圧の縁にあたるため気圧の傾きが大きくなる所があり、東日本太平洋側は15日にかけて高気圧の縁辺を回る吹送距離・吹続時間の長い東よりの風の影響でうねりを伴って波が高くなる所がある。東日本太平洋側は、13日は強風に、15日にかけてうねりを伴った高波に注意。北日本や西日本は13日は高波に、14日にかけて強風に注意。
- ② 日本付近の上空500hPaは西北西～ゾーナルな流れの中、15日朝にかけて500hPa5700m付近のトラフが北日本～東日本に進み、別の500hPa5640～5700mのトラフが沿海州付近に進む。対応して14日夜に日本海西部で低気圧が発生、15日にかけて日本海を北東進。また15日は、黄海～東シナ海で500hPa5820m付近の流れに対応した正渦度移流が次第に明瞭となる。日本付近は15日は、1項①の高気圧後面の場となって高気圧縁辺の下層暖湿気が流入、トラフや正渦度の影響で雨が降り、大気の状態がやや不安定となる所がある。対流雲の発達に留意。
- ③ 1項②の台風はフィリピンの東を北西進、15日にはバシー海峡へ進む。南西諸島は15日にかけて、1項①の高気圧縁辺や台風周辺の850hPa θ_e 336K以上の下層暖湿気が流入して大気不安定な状態が継続。また14日は、台風を波源とするうねりが到達して次第に波が高くなる所がある。南西諸島は、14日～15日にかけてうねりを伴った高波に、15日にかけて落雷や突風、急な強い雨に注意。
- 3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本。量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。
- 4. 防災関連事項【量的予報等】** ① 雨量(18時から24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：北海道・伊豆諸島3m。
- 5. 全般気象情報発表の有無** 発表の予定はない。